



2018年8月9日  
みその都市デザイン協議会

アジア屈指のサッカー専用スタジアム「埼玉スタ」の立地する さいたま市美園地区  
**「シャトルバス優先走行化」第1回交通社会実験を9月に実施**  
 世界に誇れる“スタジアムタウン”の実現に向けた『スタジアムアクセス戦略』の推進

みその都市デザイン協議会（埼玉県さいたま市、会長：久保田尚埼玉大学大学院教授）では、2018年3月策定の『美園スタジアムタウン：スタジアムアクセス戦略』に基づくプロジェクトの一環として、埼玉スタジアム2002で2018年9月30日に開催されるJ1リーグ第28節（浦和レッズ対柏レイソル）に合わせ、試合終了後のシャトルバス優先走行化の第1回交通社会実験を実施いたします。本実験を皮切りに、滞留促進策等の関連施策とも連携・連動しながら、2020年を短期目標に試合終了後の交通運用について試行・検証を重ね、地区内の交通負荷分散に向けた施策を多角的に推進し、世界に誇れる“スタジアムタウン”の実現を目指してまいります。

さいたま市美園地区は、市の“副都心”の一つとして新市街地づくりが進行中で、住宅供給や店舗建設等も徐々に進展してきております。開発初期より埼玉スタジアム2002（以下、埼玉スタ）は本地区のイメージ形成を牽引してきましたが、地区内の自動車交通量の増加に伴い、サッカー開催日の埼玉スタ来訪者動線と地域の生活動線との混在も進み、埼玉スタ周辺道路の渋滞が近年悪化してきています。また、埼玉スタは2020年東京五輪のサッカー会場の一つとなり、インバウンド対応含め、地域資源を活かした来街・回遊・滞留の促進も見据えた観客輸送・交通混雑対策が重要なまちづくり課題となっています。そこで、みその都市デザイン協議会<sup>※1</sup>（以下、協議会）



▲サッカー開催後：埼玉スタ周辺交通渋滞の様子

では、地域住民の居住環境や地区内立地施設の事業活動等と両立した、安心・安全で円滑かつ快適なスタジアムアクセス環境づくりに向け、『美園スタジアムタウン憲章』<sup>※2</sup>・『みその都市デザイン方針』<sup>※3</sup>等に即して2018年3月に『美園スタジアムタウン：スタジアムアクセス戦略』<sup>※4</sup>を策定・公表し、同戦略に基づくプロジェクトの検討・実施に順次着手してきております。

その取り組みの一環として協議会では、2018年9月30日（日）に埼玉スタで開催されるJ1リーグ第28節（浦和レッズ対柏レイソル）に合わせ、試合終了後のシャトルバス<sup>※5</sup>優先走行化の第1回交通社会実験を実施いたします。試合終了後における埼玉スタ周辺の交通渋滞悪化に伴い利便性の低下したシャトルバスの所要時間改善に向け、本実験を皮切りに、2020年東京五輪を短期目標に試行・検証を定期的重ねていく事を予定しております。また、地区内滞留促進策等の関連事業とも連携・連動しながら、公共交通の利便性向上、歩行環境・自転車走行環境の充実を図る等、地区内の交通負荷分散に向けた施策を多角的に推進してまいります。

本実験も契機に、地域関係者やサッカー観戦者等のご理解・ご協力を得ながら、サッカー開催日はもとより日常においても、サッカー・スポーツの感動や喜びを誰もが共有し、安心して快適な都市環境を次世代に伝える、世界に誇れる“スタジアムタウン”の実現を加速化させてまいります。

9月30日 シャトルバス優先化交通社会実験 実施概要

■目的 交通渋滞の直接的原因となっている自家用車から、公共交通を中心とした交通手段への転換（モーダルシフト）を目指し、シャトルバスの所要時間改善に向けた優先走行化の社会実験を行う。

■実施日時 2018年9月30日（日）16時頃～17時30分頃

※2018 明治安田生命 J1 リーグ第28節 浦和レッズ vs 柏レイソル（14時キックオフ）の試合終了後

